

総務企画委員会

「タブレット端末」「消防署・消防車両」調査・研究



▲ 兵庫県芦屋市の視察風景

5月9日
兵庫県芦屋市

タブレット端末を、議員と課長以上の管理職に貸与している。ペーパーレス化の促進による紙の削減、人件費など経費削減の効果をj得ている。また、膨大な資料が集約され、持ち運びや保管に便利である。

災害時に対応できるよう公共施設などへWiFi環境を整備しており、時間や接続台数の制限はあるようだが、市民には好評とのことである。今年度より本町も避難所などに設置されるが、運用方法について検討が必要となる。

5月10日
モリタ兵庫県三田工場
(消防車両メーカー)

消防車両は、常設地の予算において購入されており、特殊車両のため高価である。

本町は、平成13年に約1億5000万円で大形高所放水車を導入したが、更新時期が近づいており、最適な車両を検討し導入が必要となる。

北はりま消防組合加東消防署加東消防署は、今年度より供用開始された。

武豊消防支署は、昭和50年に建築され老朽化が進んでいるため、旧野菜茶業研究所跡地に移設を予定している。

建設時に配慮が必要と思われる点としては、

- 女性職員のための仮眠室・浴室・談話室などの整備。
 - ドクターヘリのヘリポートの確保。
 - 署員・消防団員の訓練スペースの確保。
 - 住民の方が、気軽に立ち寄れる施設にすること。
- などが考えられる。

文教厚生委員会

「重症児デイサービス」調査・研究

5月17日、名古屋市西区上小田井にある、重症児デイサービス「miki」と「mini」を視察しました。

代表の上野多加子さんより、設立の経緯と現状の課題について聞くことができました。小児科の看護師として勤務していた時、退院後も医療的ケアが必要な子どもを抱えた家族の問題に直面し「重度障がいの子どもたちとその家族の笑顔と夢見る気持ちを支えたい」との思いから設立に至ったそうです。

課題

- ① 対象児童に対して、重症児デイサービスの施設数が少ない。
- ② 利用定員を増やすとスタッフの加配が必要となり、経営が苦しくなる。
- ③ 利用者の特殊性から、専門的な知識や経験が必要とされるため、スタッフの確保が難しい。

感想

施設全体の雰囲気がとても明るくオープンで、保護者や地域の方と一緒に運営をしている様子が見え、本町にも対象となる児童がいることから、今後の課題としてさらに研究を重ねていかなければならないと感じました。



▲ デイサービスの活動風景